

令和4年9月1日発行(毎月1回1日発行)昭和43年1月18日第3種郵便物認可 通巻789号

国際開発 ジャーナル

International Development Journal

国際協力の
最前線をレポートする

SEPTEMBER 2022
No.789

9

<https://www.idj.co.jp>

特集

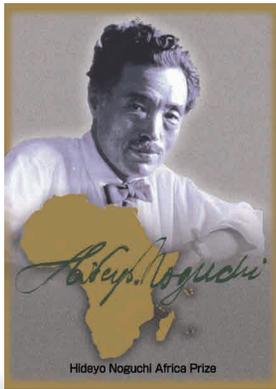
対中ODAの歴史を振り返る



2022年
創刊

55th

次代の潮流を創る



第4回

野口英世アフリカ賞受賞者の発表 新しい展望が開かれた受賞者選考

8月3日、日本政府は松野内閣官房長官による定例記者会見で、アフリカの保健分野の向上に多大な貢献を行った人たちに贈る「第4回野口英世アフリカ賞」の受賞者を発表した。「医学研究分野」は南アフリカ共和国のサリム・S・アブドゥール・カリム博士およびカライシャ・アブドゥール・カリム博士が受賞し、「医療活動分野」は「ギニア虫症撲滅プログラム」が受賞した。前者は夫妻での受賞で、後者は団体主導のプログラムの受賞となった。共同受賞や個人以外の受賞は初めてである。

科学的アプローチでエイズの正体を明らかに

人類とエイズとの戦いの中で、カリム博士夫妻がその予防や治療アプローチで世界に与えた影響は極めて大きい。南アで、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)がエイズの原因であると認めるのに国も後る向きだった20年以上前から、同夫妻は自分たちのキャリアをかけ、逆境をはねのけて実証と治療を行ってきた。彼らはアフリカのエイズ患者に多いHIV/結核の重複感染者に抗レトロウイルス療法の早期導入が有効であることを証明。また、若年アフリカ女性へのHIV感染の実態を見出し、その伝播リスクを低減させる方法を臨床治験から実証した。夫妻の多大な貢献によりアフリカ諸国をはじめ、全世界におけるHIV/エイズ予防法が大きく改善された。

夫妻は2002年に、エイズ専門の研究機関であるエイズ研究プログラム・センター(CAPRISA)を南アのダーバンに設立した。同センターは、今やアフリカにおけるエイズ研究の重要な拠点となっている。さらに、米国立衛生研究所(NIH)主導のトレーニング・プログラムを通じて、20年以上にわたり600人以上のアフリカ人研究者の育成を行っている。HIV/エイズ研究者として最も有名なアフリカ人夫妻である。

新型コロナウイルス感染症対策でも、南アフリカ政府の大臣諮問委員会の中心メンバーとして早期警戒、ワクチン接種、治療などで重要な役割を果たしてきた。

アフリカパートナーシップの素晴らしい成功例

「ギニア虫症撲滅プログラム」は1986年以降、米カーターセンターが主導してきた世界的なパートナーシップ活動だ。世界のさまざまな開発アクターとアフリカ諸国の保健省や地域コミュニティ、NGOなどが密接に連携し、ギニア虫症患者を99.99%削減させた。

この疾病は安全な飲料水がないことに起因する寄生虫感染症である。最も貧しい地域住民が主に罹患する。エボラやマラリアのように大きなニュースにはならない、典型的な顧みられない熱帯病(NTD)の一つである。1986年には年間およそ350万人がアフリカ19カ国とアジア2カ国で感染し、約1億2,000万人が感染リスクに晒されていた。ワクチンや薬剤による治療法はなく、清潔な飲料水の使用を促進する啓蒙活動や地域に根差した介入が唯一可能な対策である。

カーターセンターは呼びかけ人として、その長く地道な活動を主導し、何千人もの世界中の関係者がそれを支えた。同センターによると2021年1月～12月末までに報告されたギニア虫症の暫定症例はわずか15例。完全撲滅には至っていないが、これだけの規模の感染症を劇的に減少させたインパクトは大きい。しかも、それがコミュニティレベルで成功したことは画期的である。

同症は医学史上、寄生虫感染症で初めて、また全疾患の中では天然痘に次いで2番目に地上から根絶される疾患となる可能性が期待されている。

医学研究分野受賞者

サリム・S・アブドゥル・カリム博士

Dr. Salim S. Abdool Karim

1960年南アフリカ共和国生まれ。クワズル・ナタール大学で修士号および博士号（医学）取得。現在、南アフリカ・エイズ研究プログラム・センター（CAPRISA）所長、米コロンビア大学メールマン公衆衛生大学院CAPRISA教授（国際保健）およびクワズル・ナタール大学副学長代理（研究）。



写真提供者：Matthew Henning

医学研究分野受賞者

カライシャ・アブドゥル・カリム博士

Dr. Quarraisha Abdool Karim

1960年南アフリカ共和国生まれ。コロンビア大学で修士号、クワズル・ナタール大学で博士号（医学）を取得。現在、CAPRISA次長、米コロンビア大学メールマン公衆衛生大学院教授（疫学）およびクワズル・ナタール大学副学長代理（アフリカ保健）。



写真提供者：Rajesh Jantlal

授賞理由

長年にわたるアフリカでの科学的に厳密な研究の実施と医療人材育成によるHIV／エイズ感染症対策への世界的貢献、および新型コロナウイルス感染症対策で重要な役割を果たしたことを評価。

医療活動分野受賞者

ギニア虫症撲滅プログラム

Guinea Worm Eradication Program

史上2番目のヒト疾患の撲滅を目的に、アフリカ関係者とのパートナーシップの下、米カーターセンターが主導する国際的なキャンペーン



授賞理由

アフリカにおけるギニア虫症のほぼ完全な撲滅の達成を実現したことを評価。

今回の賞の特徴

カリム博士夫妻は30年以上にわたり、科学者としても二人三脚でエイズなどの感染症・免疫学分野を中心とした研究に従事。共同受賞は、ノーベル物理学賞を受賞した仏のキュリー夫妻を想起させる。

医療活動分野で受賞が決まったギニア虫症撲滅プログラムは、特定の法人格に対する授賞ではない。同プログラムには何十年にもわたってアフリカのコミュニティ全体が主体となって関わってきた。また、カーターセンターをはじめ、アフリカ各国政府機関、米国疾病予防管理センター（CDC）、世界保健機関（WHO）や日本の国際協力機構（JICA）など、さまざまなアクターとのグローバルパートナーシップにも支えられている。今回は、当初からプログラムの活動を主導してきたカーターセンターが代表としてこの賞を受けた。